

「数学専門領域」案内

1. 数学専門領域の目標

数学の専門知識と数学的な論理的思考力をもった小・中学校の教員養成を主な目的としている。

2. 数学専門領域へ進むための手順

専門領域振分けの際に、数学専門領域を希望する学生数が上限数を超えた場合には、春学期の成績（GPA の数値等）や数学や数学教育に関する小論文試験を利用して合格者を決定する。

（過去には、数学の試験（高校数学の範囲）や小論文試験、面接等を課したことがある）

3. 数学専門領域の履修に関する注意

数学専門領域の履修に関しては、入学時に配られた履修手引の通りとする。数学専門領域に属した場合、他教科の教員免許を取得することはかなり厳しいので、中学校・高等学校の教員免許は「数学のみ」を取得するよう心がけてもらいたい。また、授業の履修、単位の修得をしっかりとしてほしい。

2025年度以降に入学した学生（副免許希望者含む）で高校の数学 C「ベクトル」を未履修の学生は 2 年生までに各自学習してください。2 年生からの専門の授業でその知識が必要になりますが、大学での補習等はありません。

4. 数学専門領域の学生の就職状況

教員志望の学生の教員就職率は、高い状況である。

神奈川県内を中心に、数学専門領域を卒業した方々が活躍している。

（注）数学専門領域としては、「確固たる教員志望の志のある学生のみ」を選抜したいと考えている。それゆえ、教員になりたくないと思っている学生や、教員になろうという意思が薄弱な学生は志望しないでほしい。

過去 5 年間の卒業後の進路

	卒業生数	小学校教員	中学校教員	高等学校教員	臨採・非常勤	大学院進学	その他
令和3年度	26	6	2	3	2	5	8
令和4年度	21	9	3	1	0	3	5
令和5年度	19	5	4	4	0	2	4
令和6年度	20	8	2	2	1	4	3
令和7年度	20	5	3	0	0	5	7

（注1）小学校、中学校、高等学校教員には、当該年度に「正規採用」であった方の人数を示した。私立中高一貫校教員は、校務分掌を主とする学校種とした。

（注2）大学院進学は、本学の教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）、先進実践学環等の合計である。なお、大学院進学者の中には、教員採用猶予制度を利用して進学した者もいる。

（注3）その他は、公務員または民間会社等に就職した方の人数を示した。

教員一覧

池田 敏和	教授	数学教育学
両角 達男	教授	数学教育学
山本 光	教授	教育データ分析、ICT 活用
茨木 貴徳	教授	非線形関数解析学, 凸解析学
山形 紗恵子	准教授	幾何学的群論
小泉 健輔	助教	数学教育学

数学専門領域の教員から

池田 敏和 (教育学部第 2 研究棟 506)

子どもが何を疑問に思うのか, そんな子どもの心の理解こそ, 教育では大切です。そこに寄り添う中で次の一歩が見えてきます。専門は算数・数学教育です。

両角 達男 (教育学部第 2 研究棟 504)

算数や数学の授業における先生や子どもの動きをつぶさにみつめ, 「私が授業者だったら」と考えたり, 「あなたはどうか動く」と議論したりすることが大切です。

小中高の学校数学のつながりを大事に, 算数・数学教育について一緒に学びましょう。

山本 光 (教育学部第 2 研究棟 502)

未知の事を知ったり, 物事を順序立て考えたりすることは, 人間が持つ楽しみの一つなのです。一緒に楽しみながら学び, その楽しさを子供たちに伝えていきましょう。

茨木 貴徳 (教育学部第 2 研究棟 501)

数学は好きですか? 好きこそ物の上手なれ。勉強は大変ですが, せっかくなら少しでも好きなところを見つけてください。一緒に楽しんで数学を学んでいきましょう。

山形 紗恵子 (教育学部第 2 研究棟 503)

研究対象である「群」の「代数」的な性質を, 「幾何」を用いて明らかにするという, 代数と幾何がつながりあうところに魅力を感じて研究をしています。

小泉 健輔 (教育学部第 2 研究棟 505)

授業をたくさんみて, 「よい授業」にたくさん巡り合ってください。そして, そもそも「よい授業」とは何なのかを, じっくりと考え, 議論しながら, 自分の中にある「授業観」を豊かに育てていきましょう。専門は算数・数学教育です。

以上